

～新たな広域連携をめざして～

定住自立圏構想 「中心市宣言」



3月28日、国の新たな広域連携の手法である定住自立圏構想の推進に向け、関係市町村長、議会議長などが集まるなか、士別市とともに「中心市宣言」を行いました。

定住自立圏構想とは

定住自立圏構想は、大幅な人口減少と急速な少子化・高齢化が見込まれる地方圏において、安心して暮らせる地域を各地に形成し、都市圏への人口流出を食い止めるとともに、地方圏への人の流れを創出するために、全国的な見地から国が推進する施策です。

具体的には、一定の都市機能を有する中心市とその機能を利用している周辺の町村とが、農林水産業、自然環境、歴史、文化など、それぞれの魅力を活用して、互いに役割分担し、連携・協力することにより、暮らしに必要な生活機能を確保し、圏域の活性化を図る、新たな広域連携の取り組みです。

必要な手続きは

定住自立圏構想の推進には、次の三つの手続きが必要となります。

① 中心市宣言

中心市が、圏域の中心的な役割を担う意思を公表するもので、今回の宣言がこれに当たります。

② 定住自立圏形成協定

中心市と周辺町村が連携する取り組みを決めるために、一対一で締結する協定です。

今後、具体的な協議を進め、議会の議決を経て締結する予定です。

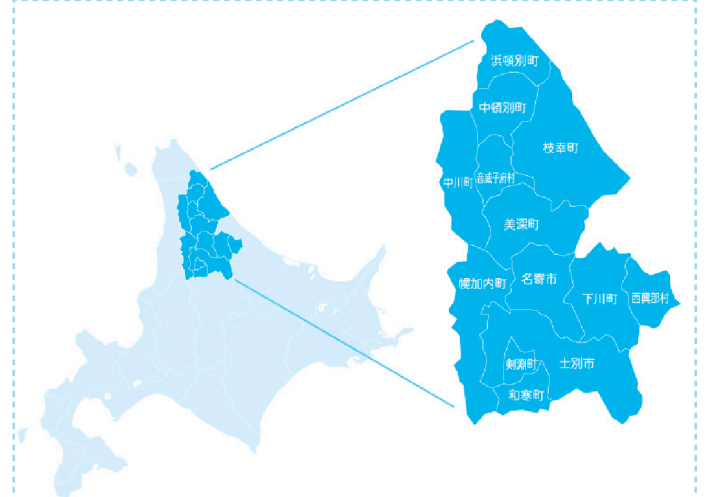
③ 定住自立圏共生ビジョン

定住自立圏形成協定に基づき、おおむ

連携を予定する自治体

現在、連携を予定している自治体は、上川北部地区広域市町村圏を形成している士別市、和寒町、剣淵町、下川町、美深町、音威子府村、中川町、幌加内町に加え、オホーツク管内西興部村、宗谷管内枝幸町、浜頓別町、中頓別町の12市町村です。

本市は、士別市と併せた複眼型の中心市として、周辺の町村と連携した、新たな「北・北海道中央圏」の形成を目指し



ね5カ年の具体的な取り組みを表すものです。

なお、市では、平成23年度内にこれらの手続きを終えたいと考えています。

連携を想定する取り組み

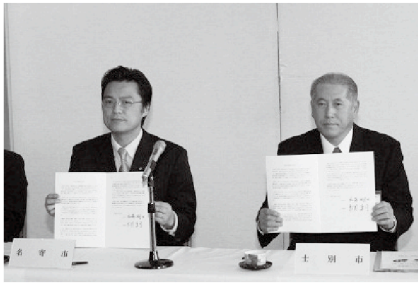
具体的な取り組みは、今後の協議によることとなりますが、次の三つの行政分野において、それぞれ一つ以上連携して取り組むことが国の要件とされています。

- ① 医療、福祉、教育、産業振興などの生活機能の強化のための取り組み
- ② 地域公共交通、道路等のインフラ整備、地域内外の住民との交流・移住促進などの結びつきやネットワークの強化のための取り組み
- ③ 人材の育成などの圏域マネージメント能力の強化のための取り組み

【圏域の概要】

【圏域の概要】

- 圏域の名称 「北・北海道中央圏」
- 人口 95,925人 (うち名寄市 31,628人) ※H17国勢調査による
- 面積 7,188.34 km² (うち名寄市 535.23 km²)
- 構成市町村 中心市 : 名寄市、士別市
- 周辺町村 : 和寒町、剣淵町、下川町、美深町、音威子府村、中川町、幌加内町、西興部村、枝幸町、浜頓別町、中頓別町



定住自立圏 中心市宣言

名寄市と士別市は、北海道北部の中央、北海道遺産に選定された朔北の大河「天塩川」の流域に位置し、肥沃な大地と豊かな水と緑、四季折々の自然に恵まれたまちです。

また、北海道北部を南北に縦断するJR宗谷本線や国道40号をはじめ、北海道縦貫自動車道や国道、主要道路が接続するなど、交通の要衝として幅広い圏域を形成し、産業、教育、医療などの拠点として、近隣のまちとともに発展を遂げてきました。

名寄市は、全国一のもち米産地を形成する農業を基幹産業に、道北第3次保健医療福祉圏の地方センター病院である市立総合病院、保健・医療・福祉の連携と協働を基本理念とする市立大学、国内有数の規模を誇る望遠鏡を備えた市立天文台など、都市機能の充実と魅力ある地域づくりに取り組んでいます。

士別市は、道立自然公園「天塩岳」をはじめとする山々に囲まれた、農業を基幹産業とする田園都市です。また、サフォーク（羊）をまちの顔とした観光と食の連携、陸上やスキーをはじめ吹奏楽や演劇等の合宿を受け入れる「合宿の里づくり」、積雪寒冷という自然環境を活かした「自動車等試験研究のまちづくり」などの地域づくりを進めています。

当圏域は、両市を含む和寒町、剣淵町、下川町、美深町、音威子府村、中川町の上川管内北部8市町村と新たに加わった幌加内町、さらにオホーツク管内西興部村、宗谷管内枝幸町、浜頓別町、中頓別町の13市町村で構成される複眼型中心市による定住自立圏であり、従来の広域圏の枠を越えた新たな「北・北海道中央圏」を構築するものです。

この間、当圏域においては、市町村合併をはじめ、上川管内北部8市町村を中心に消防、衛生組合などの一部事務組合の設置や観光、福祉、医療分野などにおける連携に取り組んできました。また、車社会の進展や道路網の整備・充実など交通の利便性の向上と相まって、通勤、通学、買物、医療など、住民の生活行動は広域的な結びつきを強めています。

今後、我が国においては、本格的な人口減少社会の到来が予想される中で、特に地方では大幅な人口減少と急激な少子高齢化が見込まれています。また、グローバル化の進展や地域経済の低迷、地方分権の推進など、地方自治体を取り巻く環境は大きく変化しており、地域が知恵を出し、創意工夫をしながら自主的・自立的な地域づくりを進めることが強く求められています。

さらに、将来にわたり安心して暮らせる地域を形成し、持続可能なまちづくりを進めるためには、自治体が互いに連携・協力をして、それぞれが持つ資源を有機的に連携させ、暮らしに必要な諸機能を総体として確保するとともに、地域の誇りを培い、魅力ある地域を形成していくことが重要となっています。

名寄市と士別市は、定住自立圏構想に基づく「北・北海道中央圏」の中心市として、圏域を構成する自治体と連携・協力しながら、地域資源を活かした魅力ある地域づくり、全ての住民が安心して暮らしていける地域社会の形成に向け、全力で取り組んでいくことを、ここに宣言します。

平成23年3月28日

名寄市長

加藤剛士

士別市長

牧野勇司